

RSウイルス予防接種説明書

【対象者】 ※希望者のみ

接種日に、妊娠 28 週 0 日から 36 週 6 日までの妊婦の方
過去の妊娠時に組換えRSウイルスワクチン（母子免疫ワクチン）を接種したことがある方も対象です。

【接種費用】

無料

【接種場所】

江南市、犬山市、大口町、扶桑町（尾北医師会管内）にある接種協力医療機関
上記以外の医療機関で接種を希望する場合は、事前に手続きが必要です。

【接種回数及び量】

妊娠ごとに 1 回、0.5mL を筋肉内注射

1. RSウイルス感染症とは

RSウイルス感染症は、RSウイルスに感染することによって起きる呼吸器の感染症です。1 歳までに 50%以上が、2 歳までにほぼ 100%の乳幼児が、少なくとも 1 度は感染するとされています。感染すると、発熱、鼻汁、咳などの症状が数日続き、一部では気管支炎や肺炎などの下気道症状が出現します。初めて感染した乳幼児の約 3 割では咳が悪化し、喘鳴（ゼーゼーと呼吸しにくくなること）や呼吸困難、さらに細気管支炎の症状が出るなど重症化することがあります。

2. ワクチンの特徴

RSウイルスワクチンは、RSウイルスの2つのサブグループ（RSウイルス-AとRSウイルス-B）の融合前Fタンパク質を有効成分とする組換えタンパクワクチンです。

3. 予防接種の効果

ワクチンを妊婦に接種することによりRSウイルスに対する抗体が母体で作られます。抗体が胎盤を介して胎児に移行すること（母子免疫）で、新生児及び乳児におけるRSウイルスを原因とする下気道疾患に対する予防効果が期待されます。

4. ワクチンの副反応

比較的多くみられる副反応は、接種部位の赤み（発赤）、はれ（腫脹）、痛み（疼痛）などです。全身症状としては、発熱、頭痛、筋肉痛などが起こることがあります。

また、まれではありますが、ショック（めまい、意識消失など）やアナフィラキシー（蕁麻疹、動悸、息苦しさなど）がみられることもあります。

5. 予防接種を受ける前に

（1）一般的注意

気にかかることやわからないことがあれば、予防接種を受ける前に接種医に質問しましよ

う。予診票は接種する医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。接種を受ける方、またはその付き添いの方が責任をもって記入しましょう。

(2) 予防接種を受けることができない方

- ①明らかに発熱している方（通常 37.5℃以上）
- ②重篤な急性疾患にかかっている方
- ③このワクチンに含まれる成分でアナフィラキシーをおこしたことがある方
- ④その他、予防接種を行うことが不適當な状態にあると医師が判断する方

(3) 予防接種を受ける際に、医師と相談が必要な方

- ①血小板減少症、凝固障害のある方、抗凝固療法を受けている方
- ②このワクチンに含まれる成分に対して、アレルギーをおこすおそれのある方
- ③過去に免疫不全の診断がなされている方及び近親者に先天性免疫不全症の者がいる方
- ④心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患などの基礎疾患を有する方
- ⑤他のワクチン接種後2日以内に発熱があった方や全身性発疹等のアレルギーを疑う症状がでたことがある方
- ⑥過去にけいれんをおこしたことがある方
- ⑦腎臓に障害がある方
- ⑧肝臓に障害がある方
- ⑨授乳中の方

(4) 予防接種を受けた後の一般的注意事項

- ①接種後 30 分間程度は、医師とすぐに連絡をとれるようにしましょう。
- ②接種後 1 週間は副反応の出現に注意しましょう。
- ③入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすことはやめましょう。
- ④接種当日は、激しい運動は避けましょう。
- ⑤接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。

5. 予防接種健康被害救済制度

予防接種の副反応により、医療機関での治療が必要になった場合、あるいは生活に支障が出るような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく給付を受けることができます。